

# PTA あきた

～みんなで育てる 秋田の子ども～



2019.3.5 No.139

【発行】秋田県PTA連合会  
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内  
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935  
E-mail : pta-akita@helen.ocn.ne.jp  
http://www.pta-akita.com

## 平成30年度 みんなで育てる 秋田ふれあい事業から



大仙市立大曲西中学校

校地環境整備



北秋田市立大阿仁小学校

大阿仁小学校全校森吉登山



美郷町立千畑小学校

御田交流受入



# 教育懇談会

1月21日(月)、秋田県教育委員会の方々から御出席をいただき「教育懇談会」を行いました。県教育委員会からは、米田進教育長、中山恭幸生涯学習課長のほか、各課関係職員の方々から出席をいただきました。

米田教育長からは、「子どもたちの人格形成にあたって、その基礎を培うためには、学校、家庭、地域の相互の理解、連携が不可欠であり、PTA連合会の役割は大きい。また、本県の子どもたちは、学力、体力ともに優れ、各方面から高い評価をいただいている、秋田の教育が注目されている。」などのお話がありました。

各課の担当の方々からは、各質問事項について丁寧に御説明をいただきました。



## 外国籍の子どもの受け入れについて

**Q** 外国人労働者の受け入れなど話題になっていますが、外国籍の子どもの受け入れについて、秋田県の学校等における支援体制、取り組みなどの現状はいかがでしょうか。そして、今後の課題、また、PTAとしてどのように関わっていけるか教えていただけたらと思います。

**A** 現在県内には49名の外国人児童生徒がいると把握しています。49名中、特に日本語の支援が必要な児童生徒は26名おりまして、各市町村が学校に支援員の方を派遣し、学習面や生活面でのサポートをしています。この支援員の方が行う学習面での支援としては、簡単な日本語での学習の支援や教科書の漢字にふりがなを付ける、教室の移動の際の付き添いなど、授業を含めた学校生活に対応していくことができるように配慮しているようです。各学校においては通常の授業で支援員の方がその子の近くにいる支援するほか、学校によって違いはありますが、日本語の支援が必要な場合は週に4時間から5時間、その子だけに日本語指導、例えば、日常生活で使う言葉や漢字の読み書き、慣用句や文法といったことの指導を行っている学校もあります。また、本人や保護者と相談した上で実際の年齢よりも下の学年で学ぶなど、本人の状況に応じた学年に在籍できるようにも配慮しています。そういうケースでは例えば中学校の部活動でも大会参加の年齢制限について配慮しているという市町村もあるようです。その他の配慮としては、スムーズに学習できるように翻訳ソフトが入ったタブレット端末の貸し出し、給食の時に宗教上のメニューの配慮をするケースもあります。

県では、今後の対応策について実態を見ながら考えていきたいということ、例えば高校入試等でも日本語の能力に応じた配慮が必要なケースも今後出てくるのが想定され、そうした入試等のケースについても柔軟に対応できるようにしていきたいと考えています。

また、質問の中でPTAの関わりについてのものがありましたが、外国人児童生徒の場合、その保護者の方も日本語が十分に話せずに孤独感を感じるケースもあると聞いています。そうした保護者の方をPTAの仲間としていっしょに活動していくようにしていただければ、その保護者の方が精神的にも楽になるとともに、子どもにもよい影響が及んでいくのではないかと思います。PTAの方々にはそうした配慮をお願いできればと思います。

## 小中学校における発達障害について

**Q** 通常学級における特に支援を必要とする児童生徒の現状や対応について、PTAとしても意識と知識が必要かと思えます。秋田県での取り組みや対応はどのようになっているのでしょうか。

**A** 平成19年に特殊教育というものから特別支援教育というように名前が変わりました。この名称変更によって、知的な遅れなどもない発達障害の子どもたちも含めて教育を進めていこうという、特別支援教育というものになりました。もう一つは、子どもたちの一人一人の教育のニーズを把握して教育を行っていくということなのです。

小中学校には、通常の学級、通級指導教育、特別支援学級とあるわけですが、この通常の学級にも特に支援の必要がある子どもが在籍しています。秋田県の子どもの数は、年々減少しておりますが、特別支援教育を必要とする子どもたちの人数は非常に多くなってきています。特に通常の学級は以前よりかなり増えてきているということで、改めて通常の学級の子どもたちにも支援が必要だということが認識されているところです。

小中学校における発達障害の子どもたちを含む特別支援教育を進めていくにあたってということが大切かということ、3つのキーワードがあります。一つは、校内の委員会です。例えば担任の先生が一人で一生懸命やるのではなく、学校の管理職の方や養護教諭の方など、さまざまな方が関わって話し合いをして支援を考えていくということです。二つ目は、特別支援教育コーディネーターです。こちらは学校の中のそれぞれの先生とのつながりであるとか、外部との連携が必要な場合切り盛りしていくという役割です。三つ目は、個別の支援計画・個別の指導計画です。その子その子のニーズに合わせた計画を定めて支援をしていきたいと思いますという取り組みです。

秋田県の公立の小中学校、高校も含めてですが、この3つはそれぞれの学校で100%確実に行われています。

次にこのような現状がありまして、今後の課題が4つほどあります。一つは管理職の先生たちがリーダーシップをもって計画を進めていくということで、これはとても大事だと感じています。二つ目は「つなぎ」

・県内にいる外国籍の児童生徒の国籍は様々です。平成30年5月1日時点で、中国、アメリカ、オーストラリア、エジプト、ベトナム、イギリス、ナイジェリア、タイなどです。多くの国から来ていて支援する側も全ての言葉には対応できないことから、支援する側でも手探りの状態で取り組みが続いているのが現状です。

・ある幼稚園ですが、外国籍のお子さんが増えてきているということで、学校からのお便りをPTAで協力して訳して保護者に届ける取り組みをしているそうです。

**Q** 個別の対応というのは、各市町村によって違うということでしょうか。

**A** 支援員の配置などは市町村で行っています。

**Q** 日本語指導支援の先生が少ない中で大変苦労しているというお話でした。それぞれの地域の中に語学に関わった人でどうか、学校の先生を経験した方々などそういう方を活用して日本語を教える指導体制、支援体制を学校での支援と合わせて考えていくことも必要かなど、話を聞いて思いました。県の学校支援などを利用しながらサポートしていくというのも一つの方法かなと思えました。

国の政策でこれから外国人がどんどん増えてくると思いますが、仕事を日本に来るといったことは県の産業施策にも関わってくると思っています。増えてくる前に教育部門、産業部門がしっかりと連携していかなければいけないと思います。その辺りはいかがでしょうか。

**A** 日本語指導に地域の中の人材を使ったらというお話、教員経験者にもよい人材がいるのではというお話、本当にそのとおりだと思います。公益財団法人秋田県国際交流協会では、外国籍の方の日本での生活全般のサポートを行っています。また、県内の日本語指導教室なども状況を把握していることだそうです。そうしたところとも連携をとりながら日本語指導だけにとどまらず、その方々の生活まで理解しながら子どもたちの教育にあたっていきたいと思います。

です。幼稚園、保育所から小学校に上がる時、小学校から中学校に上がる時、中学校から高校に上がる時、その時の引き継ぎを確実にしていくということは、その子の将来にわたって非常に大事なことでと考えています。三つ目は、学校の先生たちや支援員の研修受講です。その時に必要とされる研修も変わってきていますので、やはり継続的に研修を進めていかなければと思っています。四つ目は、交流及び共同学習の実施等による障害理解の推進ということです。やはり子どもたちにその子その子を理解してもらうためには、交流活動をする中で理解を深めてもらうのが大事なことでないかと感じています。

最後にPTAの方々には、やはり障害がある子どもたちが、社会に出て自立していくためには本人の努力はもちろんですが、周りの方の理解が必要だと感じています。もちろん学校、学級の子どもたちもですが、保護者の方、地域の方々も合わせて理解していただくということもとても大事ではないかと思います。そういう理解があつてこそ社会の中でも活躍していると思いますので、日頃から御支援を今後もよろしくお願いします。

**Q** 先程、小学校に入学する前に、幼稚園、保育所の段階で子どもの情報提供がなされているとお話をいただきました。幼稚園、保育所の段階で、この子は特別支援が必要だなどの判断ができるものですか。

**A** 就学前の子どもたちですが、幼児の場合は診断が非常に難しいですし、必ず診断が必要というのではありません。今、特別支援教育をすすめていく中で、幼稚園、保育所の先生たちにも支援するシステムが汎用性があります。市町村の教育委員会や各園の方で相談をお願いしたいというときは、いろいろな形で相談を受けています。また、今進めているのが、幼稚園、保育所の先生たちの情報を、小学校1年生の時に活かせるようにということで、「就学支援シート」という様式に書き込むことでもなっています。9割ほどの市町村でこのシートを活用するようになりました。2月、3月には、関係する幼稚園、保育所の先生と小学校の先生が一堂に会して話す機会ももつように努めています。

# 郡市 PTA だより

## かづの

### ●県内外各地から講師を招いて学ぶ

本会では秋の「鹿角のPTA活動を考える会」が、毎年県内外各地から講師を招き、刺激をいただく研修会として主要事業になっています。今回は12月1日、2名の講師の方に来ていただきました。一人目は県教育庁高校教育課スクールソーシャルワーカーの佐藤秀一さんです。佐藤さんからは、「不登校児童生徒を取り巻く環境とその支援策について」と題し、ご自身が経験してきた事例と詳しい参考資料を基に、不登校児童生徒の傾向や支援策をアドバイスしていただきました。二人目は静岡県裾野市で「何にもしない合宿」を主宰している小田圭介さんです。小田さんの取組は、週末、体育館に宿泊するために寝袋を持って集まる子どもたちのために大人たちはイベントのお膳立てを何一つしない＝(大人は)何にもしない合宿という、目から鱗が落ちるような方法で子どもたちの週末の過ごし方を支援しているユニークな内容でした。いつも講師の方からは我々には無いエネルギーをいただきます。今後も県内外各地の刺激的な取組から学ぶ研修を企画していきたいと思えます。



## 大館北秋田

### ●震災時にPTAができることは…

10月13日(土)、大館市立早口小学校を会場に、「大館・北秋田PTA連合会研修会」を開催し、会員約150名が参加しました。前半は、長年にわたって、地域のPTAの活性化、発展に寄与された37名の方々を表彰しました。後半は、研修会として、fmいずみアナウンサーや防災士等、たくさんの肩書きを持つ阿部清人氏の「学び、実践する！震災時にPTAが出来ること～楽しく科学・伝える防災～」と題した講演会を行いました。阿部氏からは、東日本大震災が発生した時の宮城県の様子やPTAで実践したこと等のお話がありました。また、地震の揺れ方を身近なものを使って実験をしてみせる、「防災エンスショー」も行われました。参加者からは、「実験を交えながらの講話でとてもわかりやすかった。」「災害が多い中、PTAとして何が出来るのか、日頃からどんな準備ができるのか、勉強になった。」等、多くの感想が寄せられ、大好評で終わることができました。



## 能代山本

### ●無理のない活動を！

今年度は独自での研修会等の活動は行わず「日本PTA東北ブロック研究大会」秋田大会への協力のみ行いました。大会当日は第一分科会の受付等が当連合会の主たる仕事でしたが、各PTA会長は勿論の事、役員・会員、多くの皆様にご協力いただきました。集まった方々が、与えられた仕事を忠実にこなしてくれたお陰で、概ね成功裏に終える事が出来ました。同時に、能代市山本郡PTA連合会の団結力がより一層高まった日でもありました。

能山P連では今後とも、当たり前的事ではありますが「子どもたちの安心・安全を見守る」を最優先に精力的に活動して行きます。また、活動が会員の負担になり過ぎないように、内容を精査して、前例を踏襲するだけではなく、今の時代に合った取り組み・活動を行っていく必要もあるのでは!? とも思えます!



## 潟上南秋田

### ●講演会「すごい南極 みいつけた！～夢は叶う～」

今年度の潟南PTA連合会研修会は、11月10日(土)井川町立井川義務教育学校体育館を会場に講演会を行いました。小・中学生を含む約70名の参加者に向けて、第50次日本南極地域観測隊越冬気象隊員の小森智秀先生から、南極での貴重な体験をユーモアを交えて講演していただきました。極寒でブリザードが吹き荒れる厳しい環境の中、時折見せるオーロラや周り一面の氷河、太陽の沈まない白夜、雄大な景色等について動画やスライドを用いて紹介していただきました。また、オゾン、気温や風速等を調査する観測気球の実物を見せながら、研究の内容にもふれていただきました。会場内には南極体験展示ブースが設けられ、南極で実際に着ていた防寒具を試着したり、南極の氷が弾ける音を聞いたりすることができました。

小森先生は、「夢に向かって、自分を信じて頑張れば周囲に支援してくれる人が現れ、夢にグッと近くなる。相談できる人を見つけてください。」と熱いメッセージを送ってくれました。



## 男鹿市

### ●PTA会員の交流と親睦を深める！

男鹿市P連の大きな事業として、毎年夏にPTA研修会を開催し、有意義な研修の場となっておりますが、それ以上に盛り上がるのが、親善球技大会と校長・教頭・PTA正副会長懇談会です。球技大会は、夏場にキックベースボール大会（全会員対象）、冬場にソフトバレーボール大会（女性会員対象）を行い、会員がスポーツを通して交流と親睦を深めております。特にバレーボールでは、大会に向けてかなり早い時期から参加者を募ってチームを作り、何度も練習（同じ学区の小学校と中学校が練習試合）をして、本番に臨む強豪チームもあります。本連合会の予算が年々厳しくなっていく中、事業を縮小したいと考えているのですが、「球技大会はなくさないでほしい」という声が多く、事務局の悩みとなっているのが本音です。6月に行われる懇談会では、特に各単Pからの趣向を凝らした学校紹介が最高に盛り上がり、これまた、なくてはならない事業となっております。



## 秋田市

### ●秋田市PTA連合会創立70周年記念式典を終えて

平成30年11月25日、秋田市PTA連合会創立70周年記念式典を、秋田市長 穂積志様、秋田市教育長 佐藤孝哉様はじめ多数の来賓の皆様、秋田市内小中学校から多くの会員の参加により秋田ビューホテルにて盛大に開催されました。



式典では、本会活動に多大な貢献をいただいた3名に「感謝状」、昨年9月に開催した「第50回日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会」の大会副実行委員長5名に「特別表彰」が贈られました。

記念懇談会では、「学校の適正配置」「コミュニティ・スクールの導入」「学校防災マニュアルの策定状況」について、秋田市教育委員会の方々と参加者の活発な意見交換が行われたほか、秋田大会において本会が担当した特別分科会の報告が行われ、盛会裡のうちに終了いたしました。秋田市PTA連合会創立70周年にあたり、多くの先輩たちの長きに渡る教育環境の充実に向けた取り組みに対する感謝とともに、先輩たちの思いを受け継ぎ、これからの80年に向けて新たな一歩を踏み出したいと思っております。

## 仙北市

### ●めざそう健康寿命日本一！

2月16日(土)、角館交流センターを会場に市PTAの研修会を実施しました。大仙保健所から保健師 大門洋子氏と管理栄養士 菅野育子氏をお迎えし、「子どもと大人の生活習慣と健康づくりについて」という演題で90分間講演をしていただきました。

前半は子ども編として、秋田県の食習慣の状況調査を基に朝食の重要性についてお話しいただきました。朝食は、一日を元気に過ごすエネルギー源であることに改めて気付かされました。また、ジュニアアスリートの基本的な食事と栄養素についても具体的なメニューを提示していただきました。

後半は、大人編の生活習慣の改善です。「塩分マイナス2g」と「プラス2000歩」がキーワード。「運動」「食習慣」「睡眠」「禁煙」「休肝日」「健診・検診」の健康づくりの6つのチャレンジを心がけ、健康寿命日本一を目指していきたいものです。



## 大仙市

### ●母親委員会研修会

平成30年度は「パイオルガンのある小学校」、大川西根小学校に母親委員長さんが在籍していました。その縁で、研修会は「大川西根小学校パイオルガン」の演奏を堪能し、お茶会を兼ねた情報交換会を行いました。参加されたほとんどの方が、「初めてパイオルガンの音色にふれた」「こんな近くでこのような素敵なことが行われているとは知らなかった」等々感動されたことを話してくれました。ゆったりと心地よい音楽にふれた後、



それぞれの学校でどんな特色のある活動が行われているのか、互いに近くなのに知られていない活動や知っていれば参観してみたい活動などについて、情報交換を行いました。子どものことを考えていくことはもちろんですが、保護者の皆さんがよいものにふれ、自分自身を高めたり豊かにしたりすることがまた子育てにより影響を与えてくれると感じた研修会でした。

## 由利本荘市

### ●矢島小中学校PTA連絡協議会 第54回教育懇談会(研修会)

平成30年11月18日、オープンしたばかりの由利本荘市民俗芸能伝承館「まいーれ」にて民俗芸能公演、矢島 濁川獅子舞、岩手県花巻市 土沢神楽、横手仁井田番楽の三つを鑑賞しました。いずれもなかなか見ることのできない迫力のあるものばかりで大変貴重な研修となりました。矢島小学校・矢島中学校保護者・職員合わせて19名が参加しましたが、初めて「まいーれ」に入る人も多く、有意義な研修会となりました。



### ●大内地区PTA連合会 研究集会「熟議」

平成30年11月18日、大内農村環境改善センターにおいて「熟議」を開きました。

テーマは「PTA活動と地域行事について～ 特色ある行事を振り返ってみよう～」とし、「あなたが好きな場所、モノをご紹介ください～大内地域を見直そう～」や「PTA活動と地域行事をご紹介ください～特色ある行事を振り返ってみよう」を切り口に活発な意見交換が行われました。



## 美郷町

### ●親力アップ講演会

美郷町教育委員会と美郷町PTA連合会の共催で「親力アップ講演会」が、6月に千畑小学校で、12月に美郷中学校で行われました。

千畑小学校の講演会では、講師に教育評論家の親野智可等氏を招き、「叱らなくても子どもは伸びる～目から鱗の子育てと家庭教育～」という演題でご講演いただきました。最近の児童心理学や脳科学の研究に基づいて、子どもに接する際に気を付けなければならない大切なことをお話いただきました。

美郷中学校の講演会では、講師に一般社団法人アジア支援機構代表理事の池間哲郎氏を招き、「本当の心の豊かさとは？」という演題でご講演いただきました。自分のライフワークである発展途上国支援の内容と関わらせながら、貧しくとも一生懸命に生きている現地の子ども達の姿を通して、人間はどう生きるべきかを語っていただきました。

子どもの育て方について大きな示唆を得ることができた講演会となりました。



## 横手市

### ●子どもたちの健やかな成長のために、今後も力を結集して!!

日本PTA東北ブロック研究大会が、秋田県PTA研究大会を兼ねて開催されるということで、毎年行っていた市研究集会を今年度は行わず、全体で協力し成功させようと実行委員会を昨年度から立ち上げ取り組んできました。横手市は第4分科会を担当し、NHKの「ためしてガッテン」演出担当デスク北折一氏の講演、パネルディスカッション等を行い、「食生活や子どもを取り巻く社会状況の変化により、小児肥満が増えている。子どもの健やかな成長について、親としてどのように関わるべきか。」をテーマに、深く考えることができ参加した方々の心に染みるものでした。実行委員の方々を中心に1年半以上の時間をかけて準備し、皆様の努力のおかげで大成功で終えることができました。子どもたちの成長のために力を合わせ、学校・保護者・地域が丸となった取り組みをしていくことの重要性を改めて感じるよい機会となりました。



## にかほ市

### ●教育懇談会～自衛隊による防災講話～

にかほ市PTA連合会では、毎年、市の教育関係者を招いて教育懇談会を行っています。

今年度は、11月30日(金)、象潟道の駅「ねむの丘」を会場に、自衛隊秋田地方協力本部長 一等空佐 今福博文氏と自衛隊の方々を講師にお迎えし、「自衛隊による防災講話」を中心に行いました。

東日本大震災や熊本地震等、近年の災害派遣における教訓事項や、家庭・地域での防災や災害への備え、災害時に役立つ防災テクニックなどの興味深いお話を聞くことができました。災害が起きた直後の自衛隊の動きや、現地での活動の様子等、それまで知らなかったことも多く、実りのある懇談会となりました。

後半には、緊急時のけが人の運び方など、災害時の「ライフハック」を自衛隊の皆さんに実演していただき、災害に対する日常からの取り組みや心構えについて意識を高める貴重な機会とすることができました。



## 湯沢雄勝

### ●筋肉をつけてスタイルアップ

11月7日(水)湯沢市ふるさとふれあいセンター「かしま館」において、ハハコム研修会を開催しました。平日の午後にも関わらず20名ほどの参加を得て、「筋肉」をテーマとした講義と実技を行いました。講義では、筋肉の仕組みや特徴などを解説した上で、運動部活動での筋トレを例にしながら、トレーニングを行う際の留意点や効果的な方法などを確認しました。

その後は、エアロビクスやヨガのインストラクターである篠原育子氏による実技でした。ゆったりとした音楽に合わせてじっくりとストレッチをしたり、軽快なリズムの曲で軽やかなステップを踏んだりして、きつくない程度の運動で爽やかな汗をかくことができました。

最後には、委員長手作りのパウンドケーキでティータイムをしながら、トレーニングと食事について語り合うこともでき、とても有意義な時間でした。



# メモリアルページ

今年度をもってPTA活動の区切り(閉校)となる学校があります。

- ①創立年月日 ②児童・生徒数 ③PTA会長名 校歌

## 能代市立崇徳小学校



①明治7年6月1日 ②17名 ③長岡 貞春

作詞 渡部 修一郎  
作曲 大山 会三郎

朝日に輝く 霧山の  
若木の姿を 身となして  
育つ我等が 肩をくみ  
共にはげまん たくましく  
学びの庭に 光あり

夕日に映える 天神の  
文化の歴史を 心とし  
崇徳の名を 守りつつ  
共にはげまん すこやかに  
学びの道に 希望あり

## 能代市立常盤中学校



①昭和22年4月1日 ②23名 ③小林 好人

作詞 竹内 瑛二郎  
作曲 小野崎 晋三

朝の光に輝きはえる  
出羽丘陵の山々に  
ゆくての望みを映しつつ  
知徳を磨く友よ友  
強く伸びゆく若杉の  
励ます歌に はつらつと  
われらの日々に わくわく

広い平野を豊かにひらき  
日に夜に進む米代に  
不断の努力を学びつつ  
明るく築く自主の塔  
大柄滝の清らかな  
姿もここに たくましく  
われらの 常盤中学校

## 鹿角市立草木小学校



①明治8年10月20日 ②26名 ③黒沢 書彦

作詞 竹内 瑛二郎  
作曲 柴田 源太郎

風もりんごの 香におい  
さわやかな この緑の丘  
つきつぎ 学んだ人たちの  
きずいたあとを うけついで  
われらあかるく つよく  
日に日に進む 新たな力  
伸びゆく 草木わが母校

青い山々 空ひろく  
きよらかな この草木の川  
雨の日 雪の日たゆまずに  
流れるすがた 胸にして  
われらやさしく すなお  
十和田の水の しずかな光  
かがやく 草木わが母校

## 能代市立鶴形小学校



①明治7年7月23日 ②10名 ③児玉 和彦

作詞 小林 カネ  
作曲 宮腰 真一郎

四方の山々 日に映えて  
小鳥の歌も きこえくる  
静かな里の 学び舎に  
今日も楽しく いざ共に

東に高く 茂谷山  
西に流るる 米代の  
清く気高き 心もて  
共にはげまん この園に

ゆい緒も深き 金刀比羅の  
あつき守りに 鶴小は  
ゆくて明るく 幸多く  
文化の園に 花と咲く

## 鹿角市立末広小学校



①明治8年4月8日 ②22名 ③板橋 知也

原作詞 米沢 岩吉  
監 修 村木 清一郎  
作 曲 米沢 潤次郎

春咲く花は うつろえど  
ときわの緑 いよ濃き  
うまし鹿角の 丘の上  
学園つと そばだちて  
文化の芽生え つちがいっ

土深井の山 小真木山  
あらがね土に しよくころ  
南におかひ 北をうけ  
大河米代 ゆくところ  
わが末広の 学園は  
古き歴史の 榮えあり

岩ふみさくみ しづまれる  
女神のみこと かたくみて  
みつぎまつるや 次女の  
田畑もさわに むるごと  
教えのつゆに うるおいて  
わが学園の 秋ゆたか

### 2019年度 「みんなで育てる 秋田ふれあい事業」 の募集について

2019年度もPTA行事、PTA内の活動グループが主催する子どもを含めた事業に上限3万円の助成を30団体に行います。応募要項は、秋田県PTA連合会のHP-お知らせをご覧ください。

## 2019年度 研究大会のお知らせ

### 第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会

大会主題 つなげよう「いのち」のバトン  
次世代を生き抜く子どもたちへ  
～地域とともに育む力 兵庫から～

開催日 8月23日(金)～24日(土)  
会場 神戸市 ワールド記念ホールほか

### 第51回日本PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会

大会主題 「つなげよう家庭・学校・地域を  
親も成長しよう子どもと共に」  
～ふるさは国の本(もと)なり、育もう地域の宝を～

開催日 9月7日(土)～8日(日)  
会場 南陽市 シェルターなんようホールほか

### 第45回秋田県PTA研究大会大仙大会

大会主題(仮) 咲かせよう!笑顔の花 届けよう!子どもたちに  
開催日 10月19日(土)～20日(日)  
会場 大仙市 大曲市民会館小ホールほか

### PTA安全 互助事業

PTAの保険は、学校管理下外のケガや登下校中のケガ、PTA行事でのケガ、賠償事故等の補償をしています。2019年度の補償内容・加入要項を3月に各学校へお送りいたします。新年度のご加入をよろしく願っています。



## 日新火災

必要な備えは、一人ひとり違います。



シンデレラ

三匹の子ブタ

赤ずきんちゃん

日常生活の「まさか」に備える損害保険。でも、あの童話の主人公たちのように、必要な補償内容は人それぞれです。そこで、オススメしたいのが日新火災。お客さまのニーズに寄り添い親切かつ丁寧な対応で、一人ひとりに合った安心をお届けしています。

### お客さまにとって最も身近で誠実な損保へ

秋田県PTA連合会補償制度取扱会社  
日新火災海上保険株式会社

東北北事業部秋田サービス支店  
〒010-0001 秋田県秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255

詳しくはホームページをご覧ください。 <https://www.nissinfire.co.jp/>